

2018年5月2日～5日

大連旅行記



右城猛・絹枝

まえがき

(株)高地丸高の高野広茂会長ご夫妻は、毎年、春に大連に行かれています。中国人の実習生を選抜するためである。

今年は5月2日から3泊4日の日程で行かれると聞いたので、私たち夫婦も同伴させてもらった。

私たちにとって中国は、香港・マカオ(1994年)、上海・蘇州(2008年)、北京・成都(2015年)に次いで4回目となる。大連・旅順は初めてである。

旅行の日程

1日目 5月2日 (水)	8:40 自宅発 ジャンボタクシー 15:20 関西空港 CA152 便 16:40 大連空港着 16:30 小籠包の店・鼎泰豊 シャングリラホテル泊
2日目 5月3日 (木)	8:30 ホテル発 9:40~10:00 溶接技能試験見学 11:00~13:00 訓練生選抜面接試験 昼食は市内でラーメン 15:00~15:30 訓練センター見学 市内見学 18:30 キノコ鍋料理 シャングリラホテル泊
3日目 5月4日 (金)	8:00 ホテル発 10:50~11:50 旅順 203 高地 12:10~12:40 旅順白玉山 昼食は海鮮料理 14:30~15:00 旅順日露会見所 16:50~17:10 棒捶島 17:50~18:20 星海広場 18:30 北朝鮮料理 シャングリラホテル泊
4日目 5月5日 (土)	8:30 ホテル発 11:00 大連空港発 14:00 関西空港着 19:00 自宅着

大連の概要



大連の位置

大連市は黄海に飛び出した遼東(りょうとう)半島の先端付近に位置している。緯度は仙台市とほぼ同じ。面積は13,000km²で新潟県の広さ。山地や丘陵が少なく平地が多い。

戸籍人口は千葉県とほぼ同じ600万人。過去5年間ほとんど変化がない。大連市で生活している人は650万人とも言われているが定かでない。

大連市は北九州市・舞鶴市と姉妹都市、愛媛県・青森県と友好経済交流協定、諏訪市と観光協定を結んでいる。

労働者の平均賃金は月額10万円。貨幣単位は円で、1元が17円。時差は1時間。

関西空港から大連空港までの飛行時間は行きが2時間50分、帰りが2時間20分。大連への航空便は1週間に成田から22便、関空から19便、福岡7便、広島5便、名古屋4便、富山2便が出ている。

大連市は90年代からIT産業育成に力を入れている。中国のIT企業の開発拠点になっていることから、世界のソフトウェア開発・情報サービス関係の企業、日本のNEC、パナソニック、ソニー、CSK、オムロンなどが進出している。

日系企業に勤めている人が多く、日本語を学習している人が約20万人いる。中国都市で唯一の日本語TV放送があり、親日家が多い都市である。

中国大連国際経済技術合作集团有限公司

私たちが大連に滞在期間中、中国大連国際経済技術合作集团有限公司の海務分公司に勤務されている高毅社長(47歳)、張長喜顧問(65歳)、張俊傑氏(35歳)の3人に大変お世話になった。

この会社は建設業、海運業、不動産業、人材派遣業など幅広く事業を手がけており、売上高は2,000億円である。

本社ビルは地下1階、地上22階建。このビルに1,000人の従業員が働いている。地下の社員食堂で社員はバイキング方式の昼食を無料で食べることができる。

ビルの中には訓練生が自由に使用できる部屋も構えられている。そこでは日本で訓練を受けて帰ってきた先輩から体験談を聞くことができ、日本の生活に早く馴染むことができるように工夫されている。

高社長、張顧問、張さんは、中国の青壮年を日本企業に斡旋することを主な仕事にしている。3人とも日本語が堪能で、日本に関する知識も豊富である。

高社長は大学時代に日本人留学生に中国語を教えてもらい、留学生からは日本語を習い、大学卒業後は1年間交換留学生として大連市と姉妹都市の北九州市に勤務して日本語を学んでいる。

高社長が日本に興味を持ったのは高校生のときで、高倉健主演の「君よ憤怒の河を渉れ」を観たのが切っ掛け。この映画は1976年に松竹系で封切り公開された日本映画である。1979年に中国で「追捕」として公開され、観客動員数8億人に及ぶ空前の大ヒット作品になっている。

無実の罪で連行された主人公(高倉健)の姿と、文化大革命で理不尽な扱いを受けた中国人自身の姿を重ね合わせて、観客に共感を与えたのが人気の原因だったと言われている。

張顧問からも経歴をお聞きしたかったが、そのチャンスを逸した。高野会長とは古くからのお付き合いで、日本にもたびたび仕事やプライベートで来られている。最近はお様と一緒に佐賀県の嬉

野温泉と兵庫県の有馬温泉に保養で来られたようである。

張俊傑さんは、日本で7年、このうちの3年間は「せとうち国際交流協同組合」で働いた経験がある。最近、1年間に100日は日本に来られているそうである。

5月2日の空港への出迎えから5日の見送りまでの4日間、張顧問はガイド役として、張君は車の運転と道案内としてずっと私たちの世話をしてくださった。

高社長は、朝食と3日目の旅順での昼食以外はすべての食事に同席し、接待してくださった。

こんなに心のこもったおもてなしを受けたのは初めてである。



中国大連国際経済技術合作集团有限公司の正面



訓練生が自由に利用できる部屋。日本での生活の様子を写真で紹介している。

訓練生の選抜試験

2日目は朝8時30分にホテルを出発。大連公園のすぐ南側にある溶接訓練所で実習候補生の溶接技能試験を見学させてもらった。

受験生は地方の中学校を卒業し、造船会社などで溶接作業の経験がある26歳～40歳の男性22名。ほとんどの者は結婚し子供もいる。農業をしている奥さんや両親を田舎において出稼ぎに来ているのだろう。会場には試験の様子を心配そうに遠方から眺めている家族もいた。

高知丸高の採用条件は、溶接の経験者。2枚の鉄板をT字形に合わせた鋼材を用いてすみ肉溶接をしてもらい、その出来映えと時間を見て審査する。3人が溶接している間、他の受験生は直立不動の姿勢で自分の順番が来るのを待っていた。彼らは真剣そのものである。

高知丸高は毎年6～8名の訓練生を受け入れている。今年は12期生となる。6期生として3年間の訓練期間を終えて大連へ帰っている王英剛君(35歳)が試験会場に来ていた。高野夫婦に再会するためと受験する友人を応援するため。



訓練生を前にして選抜試験の説明をする高野会長



3人ずつ「すみ肉溶接」



訓練生によりすみ肉溶接された試験体



第6期生として高知丸高で訓練を受けた王英剛君

彼は日本での訓練経験が評価され、立派な造船会社に就職でき、現在12万円の給料をもらっている。そのお金でマイカーも買っていた。

最近日本の法律が変わり、3年間の訓練を終えた後、一定以上の技能を有する者に対しては2年間訓練期間を延期できることになった。彼は高知丸高で訓練した4人の仲間と一緒に技能検定を受験したが不合格で、再度挑戦すると話していた。

技能検定とは、日本溶接協会が実施する溶接技能者評価試験で、これにパスしなければならない。相当ハードルが高いようである。しかも受験するには1回10万円の費用を要する。彼らにとっては大変である。

10時から、中国大連国際経済技術合作集団有限公司の本社ビルで22名の面接試験があった。全員に自己紹介をしてもらい、高野会長の質問に答えてもらい、22名の中から8名を選抜した。全員、日本語は話せない。選抜された8名は今後3ヶ月間訓練センターで日本語の研修を受け、さらにその後日本で1ヶ月間の研修を受けてから高知丸高が受け入れることになる。

日本に来るには研修費等で100万円の費用が掛かる。彼らは親戚で借りているので、それを返すために3年間中国に帰ることなく必死に働く。

高知丸高は訓練生のために無料の宿舎を構え、時間外労働をさせた場合は手当をきちんと支払うし、ボーナスも年3回支給している。こうしたことから、帰国するとき300万円を持って帰る訓練生も多いそうである。

訓練生の中には、待遇問題で企業とトラブルを起こす者がいるが、高知丸高はこれまでに1度もトラブルがなく、中国大連国際経済技術合作集团有限公司の信頼が厚い。



中国大連国際経済技術合作集团有限公司本社で面接試験



選抜した8名の訓練生に挨拶をされる高野会長



選抜された8名の訓練生と一緒に記念撮影

大連国合出国人員訓練センター

午後は、大連国合出国人員訓練センターを見学した。ここは、中国大連国際経済技術合作集团有限公司が経営している。

毎年1,300人を訓練し、これまでに7万人を卒業させている。現在も400名が学んでいる。20人の日本語教師(2名は日本人)が3ヶ月間、日本語や日本の社会習慣を教える。授業は土日曜日以外の午前3時間、午後3時間の週30時間ある。訓練生は全員が寮に入っているため、夜も必死で勉強するそうである。

便所や寝室、廊下などの掃除が行き届いていた。廊下の壁には6S(整理、整頓、清掃、清潔、作法、躰)を書いた紙が貼られていた。ゴミの分別も日本と同様に訓練されていた。

3ヶ月目を迎えているクラスを見学させていただいた。3人の生徒が日本語で自己紹介をしてくれたが、3ヶ月でここまで上達するものかと驚いた。

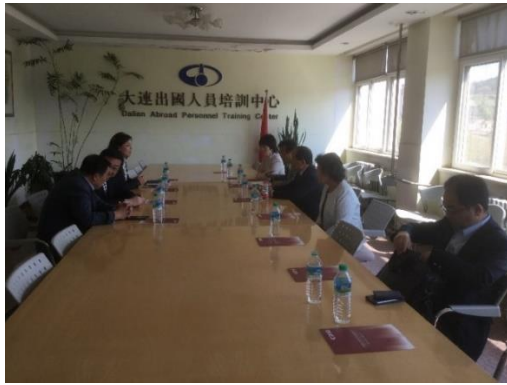
初日から「せとうち国際交流協同組合」の代表理事をされている井上裕勝氏と一緒に行動した。井上氏は大連国合出国人員センターで研修を受けて日本に来た訓練生を1ヶ月間訓練して企業に引き渡す仕事をしている。

近年、日本で働いている外国人労働者が増えている。厚生労働省によると、平成29年10月時点での外国人労働者は128万人である。中国人37万人、ベトナム人24万人、フィリピン人15万人である。訓練を受けている労働者は20万人程度と言われている。

128万人は青森県の人口に匹敵する。高知県の人口の1.8倍に当たる。すごい人数である。



大連国合出国人員訓練センターの施設



大連国合出国人員訓練センターの説明を受ける



寮は8人部屋。暖房はあるが冷房はなし。



訓練生が日本語で自己紹介

旅順観光

旅順は遼東半島の先端、大連市から西へ 50km に位置している。日露戦争(1904～05年)の激戦地となった場所である。

ホテルを出発したのは8時であったが、旅順203高地に着いたのは10過ぎであった。大連市からは電車が20分間隔で運行しており、45分で来られるようである。

二〇三高地

二〇三高地の登り口には広い駐車場が整備され、ほぼ満車であった。また、入場券を販売する

建物やゲートも整備されていた。高野会長ご夫妻が1年前に来られたときは何もなかったのにと驚かれていた。

「第10回中国大連(旅順)国際桜祭」が「二〇三桜園」で開催され、大勢の家族連れやカップルで賑わっていた。この桜園には、八重桜(牡丹桜)やソメイヨシノなど約28種類、約5,000本の桜が満開になっていた。



二〇三桜園の入り口



二〇三桜園内を走る電気自動車



電気自動車に乗って二〇三高地へ向かう

入り口には有料の電気自動車があり、これに乗って二〇三高地の中腹の広場まで登ることができた。そこから山頂に登るには徒歩で 15 分ほどかかった。

山頂には「爾靈山」と書かれた記念碑が建っていた。砲弾形の塔は二〇三高地で拾い集めた弾丸と砲弾の薬莖を用い、8年の歳月をかけて 1913 年に完成したものである。

二〇三高地を爾靈山（にれいさん）と名付けたのは乃木希典である。この山で死んだ乃木希典の次男の保典を含めた無数の霊に鎮魂の想いを込めて「二〇三(にれいさん)という標高をもって、爾(なんじ)の霊の山という」と名付けたのである。



二〇三高地の山頂にある



二〇三高地の山頂から見た旅順港

山頂から旅順港がよく見える。旅順港までの距離は 4.5km。日本陸軍の大砲 28cm 砲の飛距離は 7km であり、楽に届いたようである。

日本陸軍が二〇三高地のロシア軍を攻めるために登ってきたのは、旅順港とは反対側の斜面。ここには日本陸軍を迎え撃つために作られたロシア軍の堡塁(ほうらい)跡、乃木希典の次男が戦死した場所に建てられた碑があった。



山頂のロシア式 150 ミリメートルカノン砲



ロシア軍の堡塁



戦死した乃木希典大將の次男の碑

白玉山

白玉山は、旅順港に面した標高 130m の山。山頂からは旅順口が間近に見える。旅順港は軍港である。軍艦や潜水艦が停泊しているのが見える。軍艦の修理工場もある。

山頂には高さ 65m の忠霊塔が建っていた。この塔は日露戦争の戦没者を慰霊するため、乃木希典と東郷平八郎・陸海軍両大將の発起で 1909(明治 42)年に建立されたものである。「白玉山表忠塔」と呼ばれていたが、新中国成立後に「白玉山塔」と改名された。

ここには日本軍の大砲が 2 台展示されている。



旅順港の軍艦



白玉山の山頂



忠霊塔「白玉山塔」



白玉山山頂から見た旅順港。旅順口もはっきり見える。



白玉山の山頂に展示された大砲

旅順の町並み

大連の街は、近代的な高層ビルが建ち並び、私が抱いていた中国のイメージとは大きくかけ離れていたが、旅順の街はケバケバしい原色が目立ち、私が想像していた中国と同じであり安心した。

白玉山から水師営に移動する間に、高層マンションが建つ片方で、老朽化して崩れそうになったブロック平屋建ての民家も目に付いた。田舎に行けばこのような民家がたくさん残っているようである。

大連に比べて旅順の発展が遅れたのは、旅順港が軍港であるため。2009年に旅順の外国人立ち入り区域が大幅に緩和されたが、依然外国人立ち入り制限となっている。



旅順の街並み

水師営会見所

白玉山を見た後、明治38年1月5日に乃木希典とステッセルが会見した水師営(すいしえい)の民家を視察した。

水師営とは、中国清朝北洋艦隊隊員の駐屯所の意味であるが、今では大連市旅順の水師営を指している。

戦禍で残っていた建物は、赤十字旗をひるがえしながら野戦病院として利用していた民家だけであったため、そこを会見所にしたのである。

会見所に使われた民家は文化大革命で取り壊されている。現在の建物は1996年に復元されたもの。庭の隅には4代目となるナツメの木があった。



1996年に復元された水師営の民家



日露戦争当時の資料を展示した展示館

水師営の会見の様子は、佐々木信綱の作詞により文部省唱歌「水師営の会見」となっている。

旅順開城 (かいじょう) 約成 (やくな) りて
敵の将軍 ステッセル
乃木大将と会見の
所はいずこ 水師営

庭に一本 (ひともと) 棗 (なつめ) の木
弾丸あとも いちじるく
くずれ残れる 民屋 (みんおく) に
今ぞ相 (あい) 見る 二将軍

乃木大将は おごそかに、
御 (み) めぐみ深き 大君 (おおぎみ) の
大 (おお) みことのり 伝 (つと) うれば
彼 (かれ) かしこみて 謝しまつる

昨日（きのう）の敵は 今日（けふ）の友
語ることもばも うちとけて
我はたたえつ かの防備
かれは称（たた）えつ わが武勇

かたち正して 言い出でぬ
『此の方面の戦闘に
二子（にし）を失い給（たま）いつる
閣下の心如何にぞ』と

『二人の我が子それぞれに
死所を得たるを喜び
これぞ武門（ぶもん）の面目（めんぼく）』と
大将答（こたえ）力あり

両将昼食（ひるげ）共にして
なおもつきせぬ物語
『我に愛する良馬（りょうば）あり
今日の記念に献ずべし』

『厚意謝（こういしゃ）するに余りあり
軍のおきてに従いて
他日我が手に受領せば
ながくいたわり養わん』

『さらば』と握手ねんごろに
別れて行（ゆ）くや右左（みぎひだり）
砲音（つつおと）絶えし砲台（ほうだい）に
ひらめき立てり 日の御旗（みはた）



日本軍とロシア軍の会見後の記念写真

両軍合わせて約9万人の死傷者を出した旅順攻
囲戦でロシア軍が降伏した。その後の会見で日本
軍とロシア軍の幹部が仲良く肩を寄せ合って記
念撮影をしている。

不思議な写真である。通常、降伏した側に帯刀
は許されない。ところが写真では、ステッセル将
軍以下が軍装して勲章を付け、帯刀している。

会見の様子はこの写真とともに全世界に報道
された。武士道精神に基づいた乃木大將の仁愛と
礼節に溢れた態度は世界を感動させた。わずか5
ヶ月での旅順要塞の陥落に世界の人々は驚愕し、
またこの会見に感嘆した。

水師營の会見所にあるのは日露戦争関係の資
料である。このため訪問客のほとんどは日本人で
ある。最近では日本人の訪問者が減って施設を維持
する費用が不足していることから、当時の雑誌な
どの資料を売って稼いでいると係員から聞かされ
た。

雑誌「日露戦争実記」

水師營の会見所を何度も訪れている高野会長
が多額の寄付をされたので、明治38年6月3日
発行の雑誌「日露戦争実記 第73編」を私が戴
くことができた。

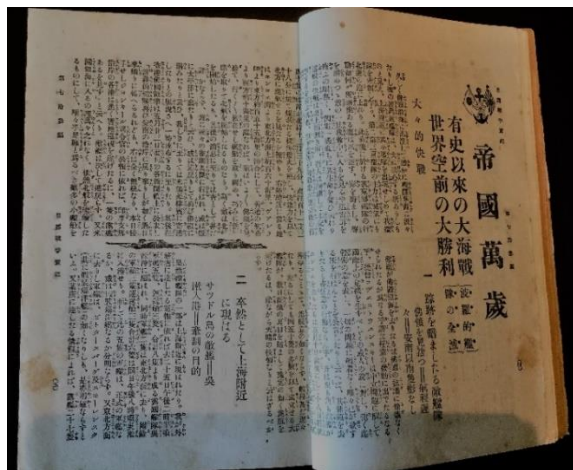
この本は「3の日及び8の日発行」と書かれて
いることから、創刊は開戦の約4ヶ月後の明治37
年6月3日ということになる。

第73編は、乃木大將とステッセル大將の会見
から5ヶ月後の発行である。

本文は128ページで、これに口絵12ページ、
広告14ページが付いている。

本文は、日露戦争実記、戦士実話、世界の反響、
日本魂、戦時文芸、陣中片信、軍国時事の7章か
ら構成されている。

本文の日露戦争実記には、「帝国万歳」「有史以
来の大海戦」「世界空前の大勝利」「我の全勝、敵
の全敗」などの見出しがでてくる。執筆者にはイ
ギリス社会学者やロシア海軍大佐たちが名前を
連ねている。



明治 38 年 6 月 3 日発行の週刊誌「日露戦争実記」

世界の反響の章は、「海戦の予測」「露国債の不信用」「露国財政の悲観」「露兵の無教育」「露国学者の財政観」の項がある。

日本魂の章には、「楠瀬少将の英風」「宣言を実行す」「決死上官を救う」「死に瀕して一糸乱れず」「奮然敵陣に突入する」「飛弾の下に敵情視察」「率先躬行最も努む」などの項がある。

愛国心や儒教の五徳(仁、義、礼、智、信)を育み、勇気を奮い立たせる記事が多い。今の北朝鮮を彷彿させる内容である。

しかし、ゴシップ記事、誹謗中傷の記事ばかりで何の建設的な意見もない今日の週刊誌に比べるとよほど優れている。

大連市内観光

星海広場と星海公園

星海湾を埋め立てて造成したアジア最大の面積を誇る星海広場を見学した。

元々は星海湾に面したごみ処分場であったが、約4年の工期をかけ1997(平成9)年に広場として完成した広場は約50万m²の面積を持つ。

広場に建設されたヨーロッパ風のオシャレな建物、広場の周辺にある超高層マンション群には度肝を抜かれた。まだ工事がどんどん進められている。ものすごいスピードで中国は経済成長している。たくさんの摩天楼が同時に建設できる財政力もさることながら、何万人も入るマンションが一瞬にして売れる中国のパワーは凄まじいと思った。

地下鉄道がすでに星海広場まで伸びてきていた。今後、星海湾を横断する長さ3km海中トンネルを4年間で完成させる計画もある。

過去5年間の大連の戸籍人口は600万人で増えていない。それにも関わらずマンションがどんどん増えているのは不思議である。

戸籍人口は増えていないが、内陸の北の方からの移住によって大連の実際の人口は増えているようである。そうだとすれば、都市への人口集中により地方の過疎化が急速に進んでいることになる。

実態はよくわからないが、日本のバブル時代のように、一部の資産家が投機目的でマンションを買いあさっている可能性もある。



広場の背後は摩天楼のようなマンション群



星海広場の高級マンション



後方のビルは大連のシンボリックな高級マンション「星海
 国宝」。蛇口をひねれば温泉が出る。価格は4億円。



ヨーロッパ風のオシャレな建物



市制百周年記念彫刻。銅で作られた80メートルの彫刻に
 老人から赤ちゃん、各業種の代表人物1,000人の足跡が
 刻まれている。百年間、大連市民がいろいろな困難を乗
 り越え、前向きに頑張っていることを象徴している。



フランスの凱旋門のような建築物



星海広場の海側はヨットハーバー



背後は、星海湾に架かる全長6.8kmの星海湾大橋。4年
 の年月をかけて2015年に完成した。上下線合わせて8車
 線ある。車道は2階建て構造になっている。

ザ・キャッスルホテル

ザ・キャッスルホテルは大連市や民間の観光開発グループが、約 15 億元以上の費用を投入し 2014 年にオープンさせたものである。

部屋の面積は 60 平方メートル以上。シャンデリアがきらめくロビーは豪華絢爛。宿泊料は 1 室 3 万円から。

張さんによると、サービスや料理は私たちが止まっているシャングリラホテルが数段上とのこと。



ザ・キャッスルホテル



ヨーロッパの宮殿のようなホテルのロビー

棒捶島

大連市の中心から約 9 km、浜海路の東端に位置する景勝地。北側は緑の濃い山々に囲まれ、南側はなだらかな砂浜と海に面している。

海岸から 500m のところに切立った小島がある。遠くから見ると、洗濯の時に衣服を叩く棒のように見えることから、棒捶島(ぼうすいとう)と呼ばれている。



毛沢東の書による記念碑



後方に見える島が棒捶島



9 棟ある別荘の内の 1 棟

ここには高級別荘が9棟あるが、このエリアに入る道路は1本しかない。警備がしやすいことから、政府の要人や国賓が大連に来られたときにはここが利用されている。

今年の5月9日の中国国営新華社通信によると、習近平国家主席と北朝鮮の金正恩朝鮮労働党委員長が7日から8日にかけて大連で会談したと、大連の景勝地の海岸沿いを並んで散歩したことを報じた。景勝地の海岸沿いとは棒捶島である。私たちが訪問した4日は、警備が厳しくて別荘の中に入れてもらえなかった。今思えば、金正恩が来るので準備をしていたのに違いない。

旧・日本人街(南山観光風情街)

南満鉄時代の高級住宅地である旧・日本人街を見物した。南満鉄の部長クラス以上、あるいは軍人がここに住んでいた。西洋風の豪華な建物が保存されている。

近年は「南山旅游風情街」「七七(南山) 特色餐飲街区」として再開発され、オシャレな喫茶店やバー、特徴あるレストランも増えている。



現在は幼稚園として利用されている



新しく建て替えられた立派な建物



保存されている南満鉄時代の建物





ふぐ専門店「天正河鮎」、高級鉄板焼専門店「三泰養生鉄板焼」、「原木餐廳 METUU」など落ち着いた雰囲気のお店やスタイリッシュなレストランが点在している。ドイツ総領事館として使用された「大連市文博芸術館」、元・日本陸軍奉天特務機関大連派出所など文化財に指定された古い建物が数多く残っている。

大連中山広場近代建築群

南満州鉄道株式会社

南満洲鉄道株式会社は、1906（明治 39）年に設立され、1945（昭和 20）年にポツダム宣言の受諾に伴って閉鎖された大日本帝国の特殊会社。略称は満鉄。初代総裁は後藤新平。

満鉄は単なる鉄道会社にとどまらず、日露戦争中に児玉源太郎が後藤新平の影響を受けて献策した「満州経営梗概」に「戦後満洲経営唯一ノ要

訣ハ、陽ニ鉄道経営ノ仮面ヲ装イ、陰ニ百般ノ施設ヲ実行スルニアリ」とあるように、それを具現するための組織であった。

満鉄は鉄道経営に加えて炭鉱開発、製鉄業、港湾、電力供給、農林牧畜、ホテル、航空会社などの事業を行なった。最盛期には 80 余りの関連企業を持っていた。



大連ヤマトホテル

ヤマトホテルは、かつて南満州鉄道株式会社が経営していた高級ホテルブランド。1907 年から 1945 年まで満鉄線沿線の主要都市を中心にホテル網を展開していた。ヤマトホテル以外の直営ホテルと合わせて満鉄ホテルチェーンと総称された。現在は改装するため休業していた。



ヤマトホテル



ヤマトホテル正面入り口



ヤマトホテルのロビー



ヤマトホテル内のレストラン

タイフォン)」でご馳走になった。ディンタイフォンは本店が台北にある小籠包の専門店。この店の小籠包はどこで食べても本当に美味しい。



後列左より張長喜、井上裕勝、高毅、張俊傑。
前列左より右城猛、高野広茂、右城絹枝、高野いくよ。

キノコ鍋料理の店・何鮮菇酒店

2日目の夜は、キノコ鍋しゃぶしゃぶ料理をご馳走になった。初めての経験であった。



キノコ鍋の店

食 事

小籠包の店・鼎泰豊

大連最初の夜は、中心街のフレンドシップショッピングセンターの10階にある「鼎泰豊(ディン



キノコ鍋料理



料理のメニュー

水市営の海鮮料理

旅順の水師営では、会見所の横にある海鮮料理店で昼食をご馳走になった。



海鮮料理の店



魚を選んで料理をしてもらう

北朝鮮料理の店・牡丹峰演芸酒店

最後となる3日目の夜は、高社長推薦の北朝鮮経営のレストラン「牡丹峰演芸酒店」でご馳走になった。牡丹峰(もらんぼん)とは平壤市内にある丘陵の名前である。



牡丹峰演芸酒店

この店は人気が高く満席であったが、高社長が一週間前に予約してくれていたお陰で一番前の席に座ることができた。

19時から30分間、北朝鮮の民族衣装「チマチョゴリ」を着た「喜び組」と思われる20代の美女が歌、楽器演奏、ダンスを披露してくれた。

写真は撮影しても良いが、彼女たちを撮影するのは禁止。しかし、ネット上では彼女たちを盗撮した動画が流されている。



料理はキムチ、トッポギ、焼肉と白菜、松茸、餃子、ワラビなどの山菜料理など



この写真は女性店員が写してくれた。



北朝鮮ビール「平壤麦酒」。アルコール濃度4%。日本のビールに比べるとまずい。アルコール25度の焼酎も飲んだが旨くはない。



最後にでてきた平壤冷麺。北朝鮮の金正恩(キムジョンウン)委員長が、韓国の文在寅(むんじえいん)大統領と首脳会談したときに食べたことで有名になった。これは美味しかった。

あとがき

今回の大連旅行は、いろいろと考えられることが多かった。

1つは、中国の経済成長。習近平国家主席の強力なリーダーシップの下に、目標達成に向けて国民が一丸となって取り組んでいる。「アメリカを抜いて世界一の経済大国になる」「農民の所得向上を図る」「台湾統一をする」という習近平の野望は現実味を帯びている。

2つ目は、街並みの美しさ。ゴミが一つも落ちていない。街路樹や植樹帯の手入れも行き届いている。これが中国かと思うくらいきれいであった。

3つ目は、おもてなしの心。今回の旅行で受けた接待には恐れ入った。ここまで心配りとおもてなしをしてくれるとは思っても寄らなかった。おもてなしは日本のお家芸と思っていた、完全にお株を奪われた。

大変楽しい思い出に残る3泊4日の旅となった。株式会社高地丸高の高野広茂・いくよご夫妻、中国大連国際経済技術合作集团有限公司海務分公司の高毅社長、張長喜顧問、張俊傑氏に心より感謝申し上げます。

2018年5月9日 右城猛